

## 0.1 H28 数学選択

[A] (1)  $\varphi(t^2 - ut + v) = x^2 - (x + y)x + xy = 0$  である. よって  $\ker \varphi \supset (t^2 - ut + v)$  である.  $f \in \ker \varphi$  とすると,  $f(u, v, t) = (t^2 - ut + v)g(u, v, t) + h_1(u, v)t + h_2(u, v)$  である. よって  $h_1(x + y, xy)x + h_2(x + y, xy) = 0$  である.  $h_1(x + y, xy)x$  は対称式の項をもたず,  $h_2(x + y, xy)$  は対称式の項のみからなるので,  $h_1 = 0, h_2 = 0$  である.

(2)  $\varphi(I_{(a,b)})$  が素イデアル.  $\Leftrightarrow \mathbb{R}[x, y]/\varphi(I_{(a,b)})$  が整域. ここで  $\mathbb{R}[x, y] \cong \mathbb{R}[u, v, t]/\ker \varphi$  であるから,  $\mathbb{R}[x, y]/\varphi(I_{(a,b)}) \cong (\mathbb{R}[u, v, t]/\ker \varphi)/((\ker \varphi, I_{(a,b)})/\ker \varphi) \cong \mathbb{R}[u, v, t]/(\ker \varphi, I_{(a,b)})$  である.

$(\ker \varphi, I_{(a,b)}) = (t^2 - ut + v, u - a, v - b) = (t^2 - at + b, u - a, v - b)$  であるから,  $\mathbb{R}[u, v, t]/(\ker \varphi, I_{(a,b)}) \cong \mathbb{R}[t]/(t^2 - at + b)$  である. これが整域となるのは  $t^2 - at + b$  が既約であるときである. すなわち  $a^2 - 4b < 0$  のときである.

以上より,  $\varphi(I_{(a,b)})$  が素イデアルであるのは,  $a^2 - 4b < 0$  のときである.

[B] (1)  $F = \mathbb{Q}(\alpha)(\beta)$  とかける.  $\beta$  の  $\mathbb{Q}(\alpha)$  上の最小多項式は  $P(X)/(X - \alpha)$  の因数であるから 3 次以下である. よって  $[F : \mathbb{Q}(\alpha)] \leq 3$  である.

(2)  $[\mathbb{Q}(\alpha) : \mathbb{Q}] = 4$  より  $[F : \mathbb{Q}] = [F : \mathbb{Q}(\alpha)][\mathbb{Q}(\alpha) : \mathbb{Q}] = 4[F : \mathbb{Q}(\alpha)]$  であるから (1) より  $[F : \mathbb{Q}] = 4, 8, 12$  のいずれかである.

(3)  $F/\mathbb{Q}$  が Galois 拡大であるから Galois 群は  $(\mathbb{Z}/2\mathbb{Z})^2$  か  $\mathbb{Z}/4\mathbb{Z}$  の何れかである. どちらも真部分群を含むから,  $F/\mathbb{Q}$  は非自明な中間体をもつ.

(4)  $P(X) = X^4 - 4X^2 + 1$  とする.  $P(X + 1) = X^4 + 4X^3 + 2X^2 - 4X - 2$  は既約であるから  $P(X)$  は既約多項式である.  $P(X)$  の根は  $\pm\sqrt{2 \pm \sqrt{3}}$  である.  $\sqrt{2 + \sqrt{3}}\sqrt{2 - \sqrt{3}} = 1$  より  $F = \mathbb{Q}(\sqrt{2 + \sqrt{3}})$  とすれば  $F/\mathbb{Q}$  は Galois 拡大で  $[F : \mathbb{Q}] = 4$  である.

$\sigma(\sqrt{2 + \sqrt{3}}) = \sqrt{2 - \sqrt{3}}$  とすると,  $\sigma^2(\sqrt{2 + \sqrt{3}}) = \sigma(\sqrt{2 - \sqrt{3}}) = \sigma(1/\sqrt{2 + \sqrt{3}}) = \sqrt{2 + \sqrt{3}}$  であるから,  $\sigma^2 = \text{id}$  である.

また  $\tau(\sqrt{2 + \sqrt{3}}) = -\sqrt{2 + \sqrt{3}}$  についても  $\tau^2 = \text{id}$  であるから,  $\text{Gal}(F/\mathbb{Q})$  は位数 2 の元を 2 つ以上もつ. よって  $\text{Gal}(F/\mathbb{Q}) \cong (\mathbb{Z}/2\mathbb{Z})^2$  より巡回群でない.

(5)  $\beta$  の  $\mathbb{Q}(\alpha)$  上の最小多項式の次数は 2 である. したがって  $\gamma, \delta$  のいずれか一方のみが  $\mathbb{Q}(\alpha)$  に属す.  $\gamma \in \mathbb{Q}(\alpha)$  として一般性を失わない. よって  $\sigma(\alpha) = \gamma$  とすれば  $\sigma$  は  $\mathbb{Q}(\alpha)$  の恒等写像でない同型射である.

$\mathbb{Q}(\alpha)$  の恒等写像でない同型射について,  $\sigma(\alpha)$  は  $\alpha$  の  $\mathbb{Q}$  上共役であるから存在すれば  $\sigma(\alpha) = \gamma$  のみである. よって一意性も示された.